

## 2025 年度 国際教養学部 FD 活動報告

国際教養学部では、2025 年度の FD 活動方針として以下の 2 点を挙げた。

(1) 昨年度から着手している学部の理念の再確認と共有、新ディプロマ・ポリシーやカリキュラムポリシーとの整合性、ならびに学部の強みを生かす教育体制の整備をさらに進める。2026 年度からのカリキュラム改正を視野に入れて、FD 研修会を年数回実施し、より具体的な意見交換を行う。

(2) 2025 年度は、演習が 3~4 年次の 2 年間の履修体制となり 2 回目のサイクルとなること、また演習・卒論指導の経験のない新任教員を新たなメンバーとして迎え入れることもあり、これまで取り組んできたディプロマ・ポリシーに基づく学修成果の適切かつ多角的な把握・評価をめざす活動を継続するとともに、2 年間に渡る教育・指導に関わるテクニックやノウハウを共有する。

このうち、実際には (1) の方針に集中して、以下のような 4 回の FD 研修会を実施した。

### 第 1 回：国際教養学部のカリキュラム改正について

(2025 年 4 月 30 日実施、於 Q71、参加人数 16 名)

#### 【目的】

- ・学生の関心の移り変わりや教員構成の変容を踏まえ、国際教養学部の理念や強みを再確認し、学部のめざすべき姿を共有する。
- ・より適切で効果的な学修機会を提供するために、カリキュラム改正を視野に入れて、自由に意見交換する。

#### 【内容】

- ・学生のニーズや教員配置など学部を取り巻く状況の変化を踏まえ、学部教務委員の大竹教授より、より適切なカリキュラムにするためのいくつかの改正案が提示された。
- ・それら提案のうち、特に重要な変更を伴うと思われる、①第二外国語の増設、②1 年次必修科目「学びの技法」および「教養学演習」の改編、③学部基幹科目（グローバル・スタディーズ科目・サステナビリティ・スタディーズ科目）の名称変更、の 3 つについて参加者がそれぞれの立場から自由に意見を述べ、議論した。

### 第 2 回：サステナビリティ教育と高大・学部大学院連携の取り組み

(2025 年 9 月 30 日実施、於 Q71、参加人数 9 名、

講師：岡本由美子教授（同志社大学政策学部）

#### 【目的】

- ・2023 年度よりサステナビリティ教育プログラムを実践している同志社大学政策学部・総

合政策科学研究科の取り組みを学び、国際教養学部の活動と比較検討しながら、サステナビリティ教育が直面する諸問題や検討課題を理解する。

- ・同志社大学政策学部および南山大学国際教養学部のそれぞれが抱える問題点や有益な情報を共有しながら議論することで、国際教養学部のサステナビリティ教育の自己点検や見直しの機会とする。

#### 【内容】

- ・岡本教授が所属する同志社大学政策学部および総合政策科学研究科の歴史や特徴を確認したうえで、2023 年度に開講した総合政策科学研究科による「サステナビリティ共創プログラム—SDGs とジェンダー」の目的やコンセプト、運営、問題点等について解説していただいた。
- ・同プログラムを含め、学部と大学院との連携強化の仕組みや、高大連携を深める取り組み、あるいは大学と社会とのつながりを強化するための国際機関との連携など同志社大学における活動について紹介していただいた。
- ・同志社大学政策学部と南山大学国際教養学部との制度的な仕組みの違いを確認したうえで、PBL 教育やフィールドワークのあり方などについてディスカッションした。

### 第 3 回：国際教養学部の将来構想（カリキュラムの見直し）について

（2025 年 11 月 19 日実施、於 Q71、参加人数 17 名）

#### 【目的】

- ・教員数の推移や学生のニーズなど国際教養学部が置かれた現状を再確認し、2026 年度からのカリキュラム改正だけでなく、2～3 年後の実施が予測される、より大規模なカリキュラムの見直しについて検討する。

#### 【内容】

- ・2025 年度第 1 回学部 FD 研修会を経て浮かび上がった、各教育カテゴリー（1 年次教育、英語教育、第二外国語教育、グローバル・スタディーズ、サステナビリティ・スタディーズ、フィールドワーク等）における問題点を共有した。問題点として、例えば、サステナビリティ・スタディーズに関して 2 年生が受講できる適切な科目が設定されていない、英語科目教員の退職により現コマ数を維持するためにはどうすべきか、近年、参加者が減少傾向にある国内外フィールドワークや ASU 短期留学プログラムの新たなあり方について意見交換を行った。

### 第 4 回：国際教養学部のカリキュラム改正について

（2026 年 2 月 4 日実施、於 Q71、参加人数 17 名、

講師：大竹弘二教授）

#### 【目的】

- ・2028 年度からの学部のカリキュラム改正を見据え、学部の特徴、教員数の変化、教育方

針等を再確認し、適切なカリキュラムを構築するために話し合いを進める。

**【内容】**

- ・2025年度第3回学部FD研修会での話し合いを踏まえ、2026年度のカリキュラム・ツリーを確認しながら、今後、具体的にどのような改革が可能なのかを検討した。はじめに教務委員の大竹教授から、2026年度の学部カリキュラムの構成図をもとに本学部による教育体系の仕組みについて解説していただいた。次に、いくつかの科目の履修可能年次の変更など、より効果的で充実したカリキュラムにするためのアイデアを出しあった。数回の意見交換で方針ないし改革案がまとまるようなものではないため、継続的にこうした意見交換をすることを確認した。

なお、2025年度のFD活動方針（2）について、当初は例年通り、2026年3月に「卒業論文報告とゼミ運営について」というテーマでFD研修会を実施する予定であった。しかし本年度は、上記のように、カリキュラム改正に特化して、複数回のFD研修会を実施することとし、その中で活動方針（2）に関連する議論も併せて行った。このため、活動方針（2）に関する独立したFD研修会は実施せず、3月3日開催教授会における報告事項として扱い、学修成果の可視化および質保証の観点から、卒業論文指導の現状と課題について教員間で意見交換を行った。